診療所実習を終えて

あかりこどもクリニック　１年　IT

私は、今回の診療所実習で７月 21 日の１日間、あかりこどもクリニックに伺った。あかりこどもクリニックは、壬生町にある小児科、アレルギー科、予防接種を主に診療科目としており、地域の子育てをあたたかく見守る”あかり”になればという思いの込められたクリニックである。

今回私たちは、新鮮な今までに全く経験したことのなかった、様々な体験をさせていただいた。午前中は、院長の問診の見学、院内の見学、院長の補助を行った。問診を見学しコミュニケーションがとても大切であると学んだ。症状を聞きながら、病名の候補を絞っていくためには、聞く姿勢を大切にし、患者さんからより多くの情報を得る必要があると理解できた。そして、円滑なコミュニケーションのためには、心理的な安全性を高めることが求められると学んだ。患者さんが医師に対して何事も気を遣わずに会話できるからこそ、少しの変化にも気づき、最適な医療を施せるのだと感じた。また、院内を見学し、至る所に子供の好むような工夫がされており「病院に行く」という目的はもちろんのこと「遊びに行く。楽しいことが待っている。帰りたくない」と思わせるような環境だと感じた。例えば、診療室の壁には病院のマスコットキャラクターであるうさぎのシールが貼られており、うさぎがどこにいるか探すといった楽しみが設けられている。また、少し体を動かせるようなスペースがあり、注射後にご褒美として、小さなおもちゃをもらえるといった点も、子供にとって過ごしやすい環境であると考えられる。

午後は予防接種の受付といった事務の見学、事務作業を行った。事務の見学を通し、受付の際に感染症拡大予防の観点などから、患者さんの症状に合わせて適宜、待機室を変えるなど臨機応変に対応していらっしゃったので、素早い判断力や行動力が求められると感じた。また、事務作業のお手伝いでは、注射後に貼る絆創膏にイラストを描くという作業を行った。このような、小さな子の興味をひき、緊張をほぐすような工夫などの小さな積み重ねが、患者さんにとって快適な環境づくりにつながっていくのだと学んだ。

また、あかりこどもクリニックでは獨協医科大学病院や新小山市民病院など多くの医療機関と連携しており、患者の症状に合わせ幅広く対応できる環境が整っていた。

このようなことから地域医療における診療所の役割は、人々が各々の住む地域で健康的な生活が送れるよう見守ってサポートし、時には橋渡しとなるような地域の医療を支えるということだと考えられる。

この度はお忙しい中、実習の機会をいただきまして、誠にありがとうございました。末筆ながら、貴院のますますのご発展をお祈り申し上げます。